

2月26日での懇談資料②

避難計画に関わって、養老地区の避難訓練で見た問題点など

- 一時集合場所である旧養老小学校まで安全に行けるのか？
能登半島地震を踏まえ道路寸断による孤立リスクを想定した避難訓練。
養老、日ヶ谷地区に暮らす住民は943人(2022.9.1 現在) この地域は、海辺だけでなく谷筋や山奥に集落があり、谷筋や山道でのがけ崩れの心配がある。高齢化もすすんでいる中で、避難の第一歩と言える一時集合場所まで安全に辿り着くことができるのか？
- 道路寸断を想定して伊根漁港から船舶に乗り込むが..？
旧養老小学校から伊根漁港までバスでの移動。しかし、道路寸断でバスは来られないのでは。
- 30キロ圏内の伊根町民も避難する中、伊根漁港に向かう道の混乱は避けられないのでは。
- 「海自・舞鶴警備隊の船舶で宮津港鶴賀埠頭に避難。バスに乗り換えて.. 」と計画
海自の船舶は20~30人しか乗れないのでは。 どうやって養老地区の全住民を船で避難させるのか？ 宮津港鶴賀埠頭まで高浜原発から離れるのではなく海を進むのは、いかななものか。 また宮津港鶴賀埠頭からはバスというが、バスを確保できる保証はあるのか？ バスは、宮津市民を避難させるには単純計算で314台 養老、日ヶ谷だけでも19台必要。
- 訓練は日曜日に行われたが、もし事故が平日の日中に起こったら、養老地区から子どもたちを府中小学校や橋立中学校などに迎えに行かねばならない ...など、とんでもない大混乱が生じる。こうした場合の対応策を検討しておくべきではないか。
- 避難一般に関わって
 - * 安定ヨウ素剤の事前配布への考えは？
5キロ圏 PAZ ではされている。UPZ でもできるはずです。国は自治体に任せるといっている。全市避難の宮津市は是非やってほしい。今はスマホで緊急時地震速報など入る。事前配布しておき、「今のタイミングで服用してください」と、お知らせするというのはどうか？
 - * 避難時に放射能測定した値をすべて通行証に記載すること。また、小さな子どもも検査できる器械の導入を京都府に求めてほしい。
- 右の「マイ・タイムライン」は風水害や地震・津波にどう対応するか、いざという時に慌てずに行動できるようにと宮津市が作成したものだが、原子力災害の時どうすれば良いのかが入っていない。現在の原発災害時の避難計画をこれに加えていただきたい。

